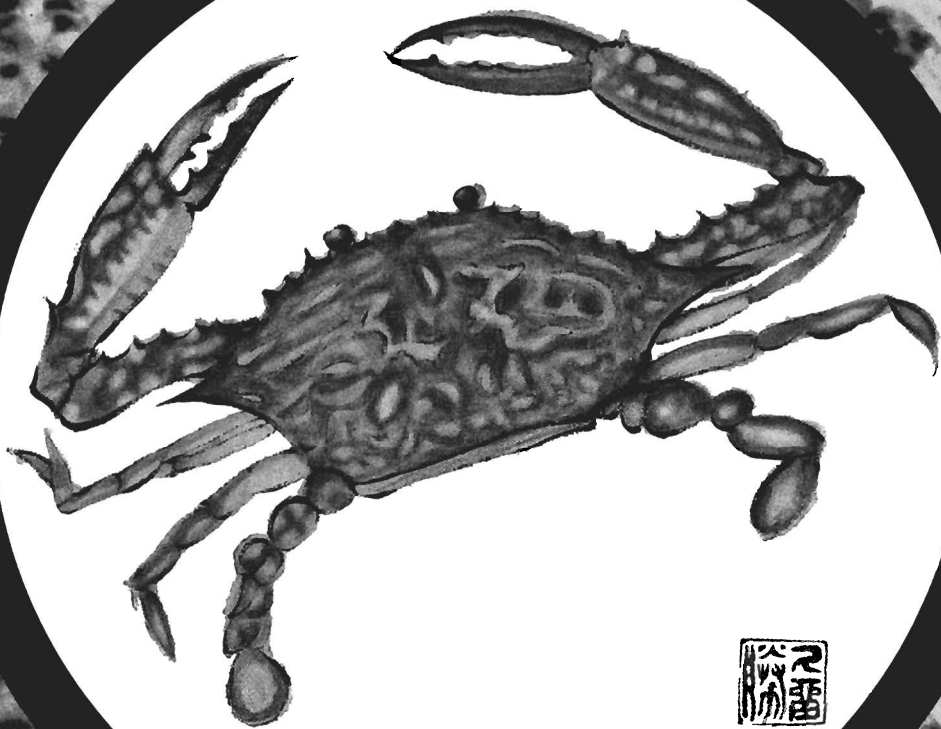


かに

KANI



創刊号

表紙絵について

癌と云う病気の概念がはっきりしたのは、19世紀中葉以後の事であるが、癌と云う言葉自体は、東西ともに可成古くから行なわれている。英仏語の Cancer は、ラテン語のまま、蟹の意味を兼ねている。そして、このラテン語はまたギリシャ語のカルキノスから来ている。2,400 年前のギリシャのヒポクラテスは、すでに病気としてのカルキノスの特徴を書き記したと云う。西紀 200 年に死んだローマの医師ガレノスは、カンケルを「時に潰瘍を伴う悪性の極めて硬い腫瘍」と定義した。蟹の字をこう云う病気の名にしたのは、昔から珍しくない乳癌の恰好が、蟹を連想させたからであろう。赤黒い、凹凸のある、醜いその外観は、まさに蟹の甲羅そのものだが、腋の下のリンパ腺まで病気が拡がり、しかも、その間を繋ぐ、リンパ管までおかされた、乳癌の末期の姿は、蟹の鉗やその足の節々をさえ、連想させる。

一方癌の字は、中野操氏の考証によれば、南宋の医書にすでに用いられているようだ。病だれの中の品山は岩石の意味で、やはり皮膚癌や乳癌の外観からの表徴文字と察せられるが、この字は癌の組織の持つ大きな他の特徴——他の組織と比較にならぬ程、堅い性質——まで表示し得て、妙である。

表紙の絵は「がさみ」と呼ばれる「わたりがに」の一種で、太平洋岸の日本近海に普通の、食用蟹の一つである。海底の砂に巧にもぐり込み、しかも、海を渡って遠くにまで行く。蟹の持つ周囲組織へのもぐりこみ（浸潤）や、方々への飛び火（転移）は、この癌の性癖で巧に表現されている。

題字の達筆は藤井理事長の揮毫である。編集部の苦心の作と察せられるこの加仁は、草書では「かに」となる。仁術に加えるもう一つのもの——一般人の理解と協力——なくしては、癌撲滅の大目的は達成し得られない事を、言外にうたっているものと云えようか。蟹の周囲のあみ目の一つ一つは癌の細胞である。

(久 留)

加 仁 創 刊 号 目 次

早期診断	長沼 弘毅	2
創刊のことば	石坂 泰三	4
創刊によせて	藤井 丙午	5

加仁サロン

がんは癒る	久留 勝	7
-------	------	---

随 想

かこの横穴	渡辺 漸	10
-------	------	----

鼎 談

花村仁八郎 久留 勝 中原和郎	12
-----------------	----

冬 瓜 の 記

左団次丈とのインタビュー	20
--------------	----

横 顔

中原 和郎	21
-------	----

あ し あ と

財団法人 がん研究振興会について	22
------------------	----

財団法人 がん研究振興会役員・評議員名簿	24
----------------------	----

寄付をいただいた方がた	26
-------------	----

ニュース、次号予告	29
-----------	----

あとがき	32
------	----

◆表紙絵解説 久留 勝

◆表紙構成 長尾みのる

◆カ ッ ト 山田 喬 園田 隆彦



早
期
診
断

長
沼
弘
毅



ひとたび高城にのぼれば万里の愁

兼葭楊柳 汀洲に似たり

溪雲 初めて起こって 日 閣に沈み

山雨来たらんと欲して 風 樓に満つ

(後略)

人も知る許渾の「威陽城東樓」の一節である。典型的な未然形。山雨を降らせてしまったては、身も蓋もない。

啄木の知られざる作に、

風 樓に満てり

ひと みな さかづきをおけども

未だ大雨来たらず

というのがある。これは、許渾の模倣といえ、それまでだが、誰しも「やったな」とおもうだろう。

まさに秀作中の秀作である。

創刊のことば

石坂泰三



社会にとっても家庭にとってもかけ替えない立場にある年令層の人達の健康について、最大の脅威となっているがんは、今日の進んだ医学をもってしてもなお未知の分野を多く残している。しかし世界各国の真摯な科学者の手によって、この頑強な敵の正体が神秘のヴェールを漸次はがされて行きつつあることも事実であり、しかも、その間においてわが国のがん研究が大きな役割を演じつつあることをきくのは頼もしいことである。

昨年九月発足した財団法人がん研究振興会は、一般社会との間のパイプとなって研究の推進に必要な援助を行なうとともに、がんに関する知識の普及をはかることを目的としている。本誌が、がんに対する共同防衛の一助として何がしかの役割を果し得れば幸いである。

創刊によせて



藤井 丙午

私は三年前に実弟を胃がんで亡くし、昨年は肉親を肺がんで亡くしたことから、がんのおそろしさをひしひしと身近に感じさせ

られました。弟の場合は、胃潰瘍からがんに発展したようで、専門医の早期診断を受ければ助かったのではないかとくやまれました。肺がんの方は、街の病院二ヶ所で診察を受け、レントゲン写真も検討していただいたが、容易に発見できず、虎ノ門病院に入院した時はすでに手のほどこしようなない状態でありました。

私がつくづく考えさせられたのは、がんの治療対策がかなり高度に進歩していて早期発見さえ

できれば、多くの人命が救われるところまできているのに、肝腎の早期発見をなし得るだけの施設、ことに発見、治療の能力のある医師の養成ということが如何に大切であり、かつ急を要するかということでもあります。

たまたま、国立がんセンターの久留総長を中心にがん治療対策の国際交流とともに、治療技術の開発進歩をはかり、また、開発された診断治療技術を全国的に普及させ、出来るだけ多くの、そして、厚い層の治療技術者の養成をはかるために、財団法人がん研究振興会の設立を企図されました。そこで私たち財界人もこれにできるかぎりのお手伝いをして、一人でも多くの人を、そして一日も早く「がん」から救うことを念願して、私もその財団の理事長をお引受けしたわけがあります。

このたび、「がん研究振興会」から機関誌「加仁」が発行されることになり、「がん」に関する研究や知識が広く普及されることになったことは、財団の意義ある事業の一つとしてその発刊と発展を心から祝い、かつ期待いたします。

加
仁
サ
ロ
ン

癌は癒る

久
留
勝



昔は……………

私たちが学生の頃、内科の先生の講義で、「がんが癒る場合がある。それは診断が誤っていた時だ」と言う皮肉を聞いたことがあります。これは大正の末期のことですが、当時、外科の偉い先生達が敢えてこれに反駁を加えなかったのは、外科で手術されたがんの方に再発が多く本当に癒る方が、実際には少なかったためでありましょう。

そういう時代だったので、世間で、がんにかかったら駄目だと云う考えが行なわれたのも、当然と云えましょう。それから既に半世紀近く、人間が月へたどり着こうと云うご時世になったのに、まだ巷では、こうした考えにとりつかれている人が少なくないのは、どうした訳でしょう。

私は「がんは癒る」という実証を、数多く挙げることができます。紙面の都合から、その中の一部だけをかいつまんで

お話ししましょう。

私は大正十五年、即ち昭和元年に大学を卒業しました。昭和九年の五月に、今の癌研究所付属病院の前身である康楽病院が出来て、その外科医長として赴任いたしました。そこで七年間がんの治療に当りましたが、その間の治療例の二十六年以上生存された方が、胃がんで七名、直腸がんで十八名、乳がんで二十二名を数えます。一番長く生きておられる人は三十五年になりますが、これらの人々は退院後普通の人と全く変わりなく元気に暮して来られたわけです。昨今、その何人かにお目にかかりましたが、誠に外科医になった誇りと喜びを、ひしひしと感じた次第です。

ここに挙げた人達の手術は冒頭の学生の頃の話から僅か十年後に行なわれたわけですから、癒った数は必ずしも多くないのは当然です。それでも、これらは人力をもってがんで癒すことが出来るというところを、実証している点で、きわめて重要であります。

さて、それ以来がんの治療の発達は誠にめざましいのですが、途中を省略して一足跳びに、それから三十年を過ぎた今日の有様をお話ししましょう。

がんセンター発足

国立がんセンターの病院が開院したのは、昭和三十七年の五月ですが、その時から、今より五年あまり前の三十八年十月までの一年半の間に、二三五例の胃がんが切除されており、そのなかで、手術をした部分の中に、転移（飛び火）を含めてがん細胞がすっかり含まれていられると思われた場合が、一三七を数えます。医者の方でこういう手術を根治手術とよびますが、この一三七人の胃がんのうち六九人が五年後の只今元気に暮しておられます。胃がんでは五年以上たつと再発の数がぐっと減りますから、五年生存率を調べると、手術されたがんのどのくらいが癒り切るかの大体は判ります。だからこれらの方々の方々の五年生存率は、実

に五〇・三％を示すことになりました。つまり、胃がんも根治手術ができるような時期に治療をうければ、半分の人は癒るということです。

と云う事は半面残りの半数の人々ではほんとうは、がんのひろがり、手術で除かれた場所の外まで及んでいた事を意味します。それではあまり自慢になりません。がんの発見はもう一つ手前の所で行なわれねばならぬと云う事です。所で私達が早期胃がんといっている胃がんの一群があります。この方の五年治癒率を計算すると、何と九〇％を越すのです。残りの一〇％の人達の中には、がんと関係のない病気や交通事故などで亡くなられた人も、含まれますから、余程運の悪い人を除きますと、早期胃がんならば殆んど全部が手術で癒ると云って、あまり大きな法螺ではありません。

早期胃がん

さて、早期胃がんというのは、胃がん

の研究者の集まりで取り決めた名前です。胃の壁には、粘膜、粘膜下層、固有筋層、漿膜の四つの違った部分を区別出来ず。胃の一番内側の粘膜から出来た胃がんは、だんだん胃の壁を外の方へとひろがってゆきます。そして、このように深い所へ進む間に、リンパ腺や肝臓や腹膜へも転移をおこすのです。早期胃がんとするのは、がんがまだ胃の粘膜か、せいぜい粘膜下層までしか進んでいないものです。このような時期には、転移は殆んど起っていない。従って、早期胃がんは手術で癒り易いと云う理屈になります。

話が胃がんにかたよりましたが、従来一番癒りの悪いとされた、胃がんがよく癒る病気になったと、いうことが分っていただけだと思います。この胃がんが、日本ではがんの半数を占めております。その他のがんでも、子宮がん、乳がん、直腸がんなどは半数以上が癒り切りますし、甲状腺がんや皮膚がんになると九〇が癒るとせられます。

要するに、がんは癒らない病気ではなくて、癒る病気なのです。癒らないがんはその大部分が発見の遅れた「手遅れ」と云えます。勿論、このような手遅れのがんを癒すための研究も、世界中でたゆみなく続けられておりますが、手遅れにならないような時期に治癒をうければ、がんで亡くなることは殆んどなくなる時代には、もうなったのです。所で問題は、どうしたらがんを早期に発見できるかです。これは一方、医師の診断技術の問題であると共に、一方ではみなさんの側の心構えの問題であります。この点については機会を改めて段々お話をいたしましょう。

ただ、早期胃がんの発見についてのみここで簡単に触れておきましょう。十年位前までは、胃潰瘍とか、胃ポリープだと思つて手術した中に、偶然早期胃がんが見つかったものです。したがって、その数も極めて限られたものでした。ところが、胃カメラが日本で完成され、その技術も日本で開発されると同時に、レン

トゲンの診断技術も飛躍的に進歩した今日では、偶然ではなく、自信を持って、早期胃がんの診断ができるようになりました。がんセンターでは、この早期胃がん数が、全胃がん手術例の一五%から二〇%を占める現状です。

最後に、最近私のところでもまとめた「早期胃がん凶譜」という本をみた、アメリカ第一流の外科医であるワンゲンスチンの感想を掲げます。「われわれは実のところ従来日本人たちの主張に、若干懐疑的であった。しかし今や、この凶譜を見て、その懐疑を去り、彼等の説の信者になるに至った。われわれもまた、謙虚に彼等の診断技術を学ばねばならぬ」と。

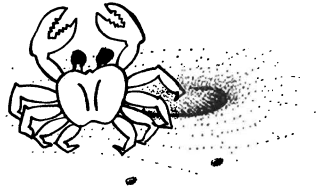
(国立がんセンター総長)

☆ ☆ ☆

~~~~~  
随  
想  
~~~~~

か
に
の
横
穴

渡
辺
漸



○ 甲羅の光った「かに」は何処から出て来るかなあと思っている中に、石垣の隙間の穴が浮び上って来る。その連想で暗い横穴のトンネルが登場して来る。

東海道新幹線にトンネルがいくつあるかと聞いて見ると、十とか二十とか言う答えが主で、三十と答えるの方はまじな方であるが、その倍よりもさらに多い六十六との答えは先づ期待されない。しかし、トンネルとは何だと定義を聞かれても、実際ガードの下なのか、トンネルだけ分らないものもあって困惑する。それで、国鉄がその入口（或いは出口）の左側の正面のコンクリートにはっきりその名前を表示してあるものをトンネルと認める事にした。この中には「新丹那」のような堂々たるものから、横浜―小田原間の「第一大和」のようにガード紛いのような一瞬で過ぎ去るものまである。また確かに跨線橋なり、ガードであってトンネルでない事が明瞭であり、従って名称も表示されていないものも無数にある。

○

交通会社の時間表には代表的なものはその長さとも名称とが出ていますが、それは十指にも満たない。それで新幹線に乗るたびに窓からそれを読み取る試みをした。まづ、品川で旧東海道を横切る「八ッ山」に初まり、新横浜までに矢上、日吉、大倉山と四つあり、新横浜から小田原までに、上菅田、本宿原、第一、第二万騎去、第一、第二大和、出縄第一、第二生沢、小原、第一、第二、第三根柄見借宿、開戸、天神山、弁天山、と十七の多きを数える。それから、熱海まで小峰石垣山、不動山、石橋山、米船山、片浦南郷山、泉越、城山、第一熱海と続く。さらには、静岡まで、第二熱海、新丹那函南、観音松、玉沢、竹倉、谷田、蒲原由比、興津、袖師と十一ある。また静岡から浜松まで、用宗、石部、日本坂、第一、第二高尾山、切山、牧の原、蘭川、潮海寺、下の池、満水、大門と十二を数える。浜松から名古屋までは豊橋までは一つもなく、それから名古屋までに星越

坂野坂、永野、羽角、大高と五つだけである。

名古屋からは岐阜を過ぎるまでなく、山中、関ヶ原、琴岡、加勢野、横山と米原まで五つあり、米原からは京都までに音羽山と最後の東山の二つだけである。

○

名前だけ並べて所定の原稿の枚数も終わると言うのは妙案でもあるが、もったいらしくつけ加えると、新幹線の専務車掌じゃあるまいし、それにふところの都合もあり、二ヶ年位は掛った資本と時とを要した調査である。

新幹線、殊にひかりは速くてトンネルの入口に近づいたと見るや直ぐ過ぎるので、その名称を確認するのは容易でない。また、その順序なども、記憶では随分出たためであって、短時間の眼からの認識の正確度等情ないものである事を思い知らされた。何度も訂正し、チェックした筈のこのデータでも、或いは誤ちを指摘されないでもない。

単なる興味本位の気紛れから出発した

こうした経験からも、科学的の研究においての観察に正確を期するのは決して容易なことでない事を、改めて反省させられたのがせめての慰みである。

(国立がんセンター研究所病理部長)



鼎談



出席者（敬称略）

花村 仁八郎

経済団体連合会専務理事

久留 勝

国立がんセンター総長

中原 和郎

国立がんセンター研究所長

写真 右から、花村、久留、

中原の各氏



★がんは治るか★

花村 私の身近にもがんで亡くなった人がんで癒ってずっと長く生きている人、それぞれあります。先に亡くなった方を申しますと、友人の息子で、大学を好い成績で出て、会社に入った。ところが、その年の夏に少しおなかが痛いと言い出した。食あたりじゃないかというようなことで治療をうけましたが一向よくなるので、採用間もなくだったし丈夫な方だったので、無理して働いているうちどうも耐え切れなくなって、十二月に郷里へ帰って、病院で診察してもらったところ、がんだと判りました。わずか二十三歳でした。

久留 直腸のがんには、若い方が少くありませんね。

花村 そのあくる年、ほんとうにやせ衰えて死んでしまった。これなどはいまになって考えてみると、夏から冬までの間、地方にいてむだに過ごしてしまっただけ。何とかならなかったかという感じがします。

これに対し、いつもお話するのですが、第一信託銀行の社長だった磯崎さん。この人がどこのがんだったのか、「おれはがんの手術

して、もう二十年生きてるのだ」とよく言われたので、「それはうそだろう、がんじゃなかったのだらう」と冷かしたら、「うそだと思ふなら行って見てこい。ちゃんと東大に標本があるから」と言うのです。

久留 うそじゃないでしょう。私、いまそういうことを調べているのですが、私自身手術をして三十年以上生きてる人が、胃がんで三人、腸がんで六人、乳がんで二十一人あります。二十年以上というのなら、確実に六十例はあります。みんな標本が手許にあります。

花村 そういう人は、若いときに手術をした人ですか、相当年輩の人ですか。

久留 やっぱり四十、五十というところの方が多くですね。それより若いと、さっきのお話のようにまさかがんじゃなからうということ、手おくれになりがちです。さっきのお話の方が、半年診断がおくれたというのは致命的ですね。ところで最近、子供のがんも多く手術を受けますよ。昔は子供にがんはできないと言われていたでしょう。生まれて三

日目にがんが見つかったというのが出てきましたよ。しかも、肝臓がんですよ。私の知っているのに手術をして六年びんびん生きている児があります。手術したときが赤ん坊だったんですよ。いま水兵服を着て幼稚園に通っています。

中原 それこそ手術後六十年も七十年も生きるという例になりますね。

久留 そう、そう。

花村 肝臓のがんもできるのですか。

久留 大人の肝臓がんは方々にできることが多く、手術の成績も悪いのに、子供の方は存外よく癒るので。

中原 肝臓の部分切除ですね。

久留 動物実験で、肝臓は三分の二ぐらい取り去っても、もとの大きさに帰ることが知られている。人間の場合でも同じです。

花村 さっきの磯崎さんはもう手術後二十年のいま、人並み以上の仕事をして、酒も飲む、あまり飲むのでびっくりするくらい。

久留 つまりほんとうの手術というものはそのようなものであるべきです。もとに戻ったか、あるいはそれよりもよくなって活動力を得るということではなければならない。

★がんの正体は★

花村 ところで、がんはどうしてできるのですか。

中原 からだの一部分からできるので。がんの細胞というのはよそから入ったものではなくて、自分の細胞の変ったものなのです。つまり、身から出たさびなのです。

花村 病原菌のようなものがあるんじゃないということですね。

中原 これからはそういう場合もあり得ると思う。がんはいろいろな原因でできるが、できたものは同じがんです。その上がんができるまで、その原因は作用しつづけてなくてもよい。たとえば、薬でがんができますね。その薬は一ぺんがんができる量まで使ったら、後は使用を中止してもがんのできるのを防げない。そして、一旦できたがんはほうつておいてもどんどん殖えて行く。がんの自主的増殖というやつですね。

花村 ふえるには栄養が要るでしょう。それはどういうふうにな……。

中原 人間のからだだからがんの方に栄養を奪いとるわけですね。

花村 寄生虫みたいに。

中原 そう、そう。人間のからだに何も役に立たぬのみか、害をさえして、そして栄養だけは人並み以上にとって行く。

花村 その正体をもう少し詳しく……。

中原 正体は細胞ですよ。われわれのからだの細胞が変になってきた……。生殖の話のように、肝臓をちゃん切ると、肝臓は再生してもとの形になってくるでしょう。ところで、再生がそのままつづけば、いくらでも大きな肝臓になる筈でしょう。ところが、そうじゃなくて、元の大きさにまで戻るとそこで再生がとまる。それ以上大きくならぬわけです。からだの中にはそういう調節機構があるのですよ。がん細胞にはこう言う調節機構が全然欠けている。

花村 そういう変な細胞がどうしてできるのでしょうか。

中原 がん細胞の子孫はみんながん細胞です。従って、がんが増殖する場合、みんながん細胞でしょう。だから、初めてできたがん細胞というのは、遺伝的の性質が変わった

と考えざるを得ないのです。そこで、何が起こったかということですね。現在では、この遺伝を支配する物質というのは細胞の核の中にある核酸という物質と考えられますが、核酸に何かの変化が起こったためであろうと推定されるのです。

花村 よく突然変異というのがありますがあれみたいののですか。

中原 そう、そう。まさにそれに非常に似た現象です。からだの細胞の中で起った突然変異だろうというふうに考えている人が多いのです。

久留 遺伝子をなす核酸が、太陽の紫外線とか、宇宙線という放射線等でぼいんとやられると、核酸の中の組み合わせが変わってきて、変てこな、違った生物ができてくる。それが自然界における突然変異です。人間の中からだの中である部分の細胞だけに同じようなことが起きると、その部分だけが勝手に増殖してきて、本来からだの一部であるのに、からだの統制に従わない。個体の中の突然変異という見方も出てくるわけです。

花村 ところで長野あたりの医者で、がんはビールスできると言っている人がありますね。

中原 がんビールス説というのは、大変難しい問題なのです。長野のはもちろん、これ

まで人間のがんの、ビールス原因説というものは、いづれも信頼すべきものでない。しかし、動物には確実にそれがあるのです。動物ではそれが原因のものが、いくつも見つかっているのです。中でも早くから有名なのが鶏の肉腫です。

久留 四十年前にアメリカでラウスという人がこの鶏の肉腫を見つけた。中原君はこのラウスの共同研究者なのです。

中原 動物に現にそういうものがあるのだから、人間のがんにもビールスが原因のがあるってよいわけなのです。

久留 アフリカで子供の顔にできるがんがある。それがやっぱりビールスと関係があるらしいということが、近頃判って来ました。動物のがんならそれを他の動物に植えて、同じものができれば証明がつくわけです。しかし人間だから、これは出来ない。この点が非常にむずかしいところです。ビールスというのは、細菌と違って生きた細胞の中でなければ発育しない。だから、実験のしようがなかったのです。アフリカのこの地方のがんがビールスによるらしいという根拠の一は、蚊の発生の多いところに非常にたくさんこのがんができるからです。

中原 現在のところこれを証明するための一番進歩した方法というのは、人間の細胞を

試験管の中で培養して、それで試験するのです。うまくやるとこの細胞は硝子の上に一重に並んで生えてくる。それにビールスをかける。そうすると、その中で幾つかの細胞ががんになり、そこでは増殖が早いので、培養が盛り上ってくるのです。この事実で、がんが出来たかどうかを判定するのです。一番困ることは、普通の伝染病だと病気の所にその病原菌が見つかる。たとえば結核菌で病気をつくれれば、その結核病巣に結核菌が沢山にいる。ところが、がんの場合は、出来ると、そこに見えなくなってしまう。自分は逃げて

★がん患者はふえているか★

花村 ところで、近年友人の中でもがんで死ぬ人がたくさん出始めた。胃がんが一番多い。肝臓がんというのも多い。こういうのは昔がんと診断できるようになったという意味ですか。それとも、ほんとうにふえたのですか。

久留 双方ともあります。たとえば、年齢が多くなると、がんになりやすいでしょう。それで平均寿命が上がってきたから、がんになる人が多くなったということも言えるわけ

しませうのです。

久留 幾らさがしても、がんの間からはビールスが出てこない。

中原 しかし、出てこなくてもビールスが原因でないとはいえない理由がある。たとえば、薬品でがんをつくる方法がいろいろあります。しかし、一旦がんができてしまうと、もうそんな物質はもう必要でなくなる。自動的にどんどん大きくなる。だから原因をなした薬はがんの中に見付からなくなってしまう

花村 一旦できたら、繁殖には必要ないということですね。

です。もう一つは環境の中にもがんを作る原因がふえて来た事にもよるのです。たとえば大気の汚染です。明らかにがんをこしらえることのわかってる物質が、大都会の大気の中にはいろいろある。非常に少量だから、わずかの期間ではわからない。いつの間にか蓄積されていくと、ある瞬間からがんがつかられる。そういう問題もありそうですね。

花村 年取るとがんになりやすいというのは、どういうわけですか。

中原 今、久留君の言ったような現象ですから、短い時間では起りえないこと、すべてが時間の函数になるわけです。

久留 薬で鼠にがんをつくる場合でも、百日が普通、長いのは二百日もかかる。身体の大い人間の場合はさらに長くかかるのが道理でしょう。

花村 がんが発生するまでに時間がかかるから、年寄りに多いということですか。

久留 そうです、他の病気で死んでしまつてはがんの出来ようがないということです。

中原 インドで、昔、がんがなかったというのは、子供のうちに死んでしまう率が多かったからで、老人なんていなかったから、がんが少なかったわけですね。

花村 いまの大気汚染の問題は、経団連でも研究している公害の問題と関係しますが、大気中にあるがんを発生せしめるものというのは、たとえばどういふものですか。

久留 先ず煤煙です。これは昔イギリスで煙突を掃除する人に、非常にたくさんがんができた。腿の内側の皮膚のがんです。煙突掃除夫だから、ズボンがタールでよごれてますね。それに外国人はあまり風呂に入らない。それで煙突掃除夫に限って内腿のところにごんがたくさんできたのです。この報告に目をつけて山極先生が、タールを皮膚に塗つたら

がんができるだろうと思いついたのです。ウサギの耳に一年以上毎日タールを塗つたら、立派にがんができてしまった。これは世界で初めて人間がつくつたがんなのです。このタールに似たものが、すすの中にあるわけでしょう。だから、石炭がもうもうと煙を吹いておつた時代、石炭が非常にたくさん使われるところには、やはりがんが多かった。近年は燃料が重油にかわつてきましたね。重油を燃してもすすはあまり出ないが、そのかわりに他の大気汚染と関連するがんが増えて来た。

花村 亜硫酸ガスはどうですか。

久留 亜硫酸ガスそのものは肺がんと関係ありませんが、重油からできたものの間に、他のがん原性物質が入っている可能性は充分ありますね。

花村 重油の中にですか。

久留 重油そのものより、自動車の排気ガスですすね。だから、やはり空気をきれいにするといいことは、がんを少なくする最短の道ですね。

中原 がんをつくる物質というのは、いくつもあるわけです。そういうものの一つにでも、一ぺんたつぷり働かれた細胞とは、一生涯その影響を記憶していると言つたらいいでしょう。つまり細胞にある変化がおこるのです。それ自体はがんでないが、そこへまたほかの

全然違ったがんを作る条件が加つてくると、前にがん原性物質にさらされたことのない細胞よりは、がんになり易い。つまり色々の影響が加算されるのです。それと同じ理由から、大気汚染のあるところでは、たばこを吸う人は吸わない人よりがんになる率が高い。

花村 たばこは関係ありますか。

中原 たばこの煙だけでがんをつくらうと思つて苦心したけれども、結局できませんでした。つまり、たし算の一部分にしかならなかったわけです。ほかのものと一緒にやつていたらどうだったろうかという問題です。

久留 だんだんエネルギー源が変わつてきておりますね。石炭から重油に転換しましたが、あと十年位たつと今度はおそらく原子力に換わるでしょう。そうすると、煤煙の出る工場はおそらくなくなつてくるでしょう。がんの寄せ算の一つの項が抜けると思つて安心できるかという点、そうは行きますまい。今度は原子力のために土地や河川や海水がやられる恐れが出てくる。放射能で汚染された野菜や、牛乳や、魚が出廻つてくる危険がないでしょうか。骨や血のようなわれわれがいま考えていないような場所に、がんができるおそれがないと言えないのです。

花村 原子力と関係があるとなれば、これはまた大きな問題ですね。やっぱりがんは公

害でふえているのですか。

久留 そうです。たとえば肺がんというのは、アメリカでは三十年の間に十何倍とふえてしまった。日本はおそかったが、戦後十年ぐらいで急速度に上がってきているのです。

★がんの治療法は★

花村 がんの具体的な治療法を教えてください。

久留 がんの治療法の中で一番長い歴史を持つているのは言うまでもなく外科的療法です。即座にがんのある悪い組織を取ってしまうのだから、飛び火さえなければ、一番確実な方法です。

花村 どうして飛び火するのですか。

久留 普通なら細胞はできたところ以外に育たないわけでしょう。ところががんは、あまり増殖が早いのでかけらが出来る。そのかけらがある程度生存力を持っているわけです。そのかけらが適当なところにくっつくと、そこでも育って、どんどん大きくなる。飛び火ですね。これががんの治療を妨げている一番大きな問題なのです。ですから、飛び火のないうちに発見されれば、外科でそれを取って

花村 それは排気ガスですか。

久留 煤煙もありますし、そのほかいろいろあります。

中原 人間の生活環境にこれまでなかったいろんなものが入ってきたわけですね。

しまえば一〇〇%癒る。われわれが手術をして癒したというのは、たまたまその飛び火のない、あるいは飛び火があっても、取れる範囲に限られている間に手術をしたのです。それのみが最近では切らないでも癒るのが出てきた。放射線の器械や、かけ方が非常に進歩したからです。いままで三十日かけなければならなかったというのが十日で済む。あるいは一時間かけないと、充分にいかなかったのが五分ぐらいで済んでしまう。薬の方も急速に進歩してきたのです。

花村 放射線でがん細胞をやっつけるというのはどういう理屈ですか。

久留 放射線は上手にかければ、普通の細胞には害を及ぼさないので、がんの細胞だけをやっつける。がんの細胞はあまりに早く増殖するということで、弱いところもあるわけ

す。そこを利用して、がん細胞の息の根をとめるわけです。化学療法にもそれに似たところがあります。薬が正常な細胞に害を及ぼさない程度で、がん細胞だけやっつける量というものがあるのです。

花村 薬というものはそういうものなのですか。

久留 薬というものは本来みな毒です。上手に使って、悪い影響を残さないように、良いはたらきだけを期待するわけです。がんに対する薬と言うのもつまり同じことです。要するに毒性が少くて、治療性の高いもの、そういうものが欲しいわけですが、それがだんだん見付かってきたわけです。

花村 どういう薬をどう使えば良いかを、お医者さんはみんな知ってるわけですか。

久留 ただね、非常に使い方がむずかしい。つまり分裂の盛んな細胞をやっつけるのですから、分裂の盛んな他の細胞たとえば、生殖細胞、それから白血球、こういうものまで使い方でやられるわけですね。

花村 話は違いますが、シイタケに制がん作用があるのですって。

中原 これはがんにとりでに癒ることがあるかどうかの問題と関係があるのです。つまり身体にひとりでがんを癒そうと言う力があるかどうかと言う問題です。がんの細胞は

★がんは予防できないか★

周りのほうから脱落して、血液やリンパ腺の中に入るでしょう。こういう脱落してきたがん細胞は、根っこがないのだから、ある程度からだの中で殺されるだろう。つまり人間のからだにはがん細胞をある程度殺す力があるのだという見方が成り立つわけです。ところでこれまでの化学療法のおねらいというものは、がん細胞を直接殺すことにあったわけです。

だから、どれもこれもみんな猛毒ですよ。この考えを一応捨てて、今述べたわれわれの考えが持っている抵抗の方を何とかして増強することはできないか。これを実験的にためしてみようというのが、いまのシイタケ論の起りです。ところでシイタケの中の成分で現実動物のがんのある種類、これがほんとうに完全になくなってしまふことが判つたのです。しかも、このシイタケのエキスは動物のからだに少しも悪い影響ももたない。

花村 ということまで実験上、わかつたのですか。

中原 ええ、ただここで問題があるのは、実験に使っているのは動物の移植がんであつて、これは人間のからだの中から出来てきたがんとある程度違ふ、と言う点です。このところはまだ検討を要する点が残されているのです。

花村 次に伺いたいのはがんの予防はできるのかと言う点です。

久留 できますとも。どういう原因でがんが出来るのかということが明らかにされればその原因を取り除きさえすれば、がんは出来ますまい。これが根本的のがんの予防です。

それから、がんになりやすいことの判つている病気がある。たとえば胃のポリープ、そのあるかっこうをしたものはがんになる率が大変高い。あるいは胃潰瘍で非常に長く癒らないものは、がんになりやすい。そういうものを癒すとか、取り除くということは、ある意味でがんの予防になりますね。最初の方の予防の例です。先ほど申し上げた煤煙を取り除けば肺がんが少なくなるだろうと言えますね

これは間違いない。それから自動車の排気ガスを早く取り除けば、これもがんの予防になるに違いない。その上食べものががんの発生に関係があるようです。日本に胃がんが他の国より多いのですが、日本の中でもある県には特に多い。そうすると、その人が食べている食物に何か関係があるのではないか。こ

ういうことを徹底的に調べて、疑わしいものが見付かったら、そのものを食べなければ、がんの予防ができるわけでないでしょうか。

花村 国民全体としても、個人としても予防できるわけですね。

中原 先に加算理論を申し上げましたね。いろいろがんをおこす原因が加算されてがんができる。これはこわい話ですが、考えようによつては処理し易い。寄せ算の一つずつの項を取り除いて行けばいい。一つでも少なくすればするほどそれだけががんの予防になるわけです。

花村 これにはしかし、政界、財界、官界の協力がなければいけませんね。生活環境の整備ということですね。

中原 そこまでいくにはなかなかたいへんです。けれども、特にそこへいくまでの研究が必要なのですね。先ず充分正確な知識を得なければならぬ。

★早くみつけるには★

花村 ところで、がんを早く見つけるにはどうしたらいいのですか。

久留 これは非常に簡単です。ということでは、近頃だんだんからだの中を見ること、できるようになって来たからです。たとえば胃袋の中なんか、箸くらの太さの写真機を中に入れて自由自在に色付きの写真を撮ることができるようになったのです。胃はもちろんのこと、十二指腸も見える。腸の方でも肛門から管を入れて盲腸のところまで見えるようになったのです。だから、いままででんで見えなかったために、発見の遅れたものが見つかると至ったわけです。昨今、私たちは指の先ぐらの胃がんをどんどん見つけていますよ。同じ理屈で今度は肺のほうが調べられるようになりました。気管から鉛筆ぐらの管を入れて、それを通して肺の内の写真を撮ることができるようになったわけです。

花村 会社で定期健康診断していますが、ああいう方法で早期診断ができるのですか。

久留 そういう方法でないと出来ないのです。

花村 あやしげな人をチェックして精密にやっていくということですね。

久留 そう、そう。ところで、そのためには医者の方も再教育をしなければいけません。というのは、第一線の人がある程度の知識を持つていないと、ないものがあると見そこなったり、あるいはあるものを見落したりするのです。これは非常に危険な事です。がんは大きれば大きいほど治療はむずかしいけれども、診断は楽です。小さければ小さいほど、治療は楽だが、診断がむずかしい。ですから医師の診断の能力を高めて行かなければならない。

花村 私が一番さっき言ったように、大事に育てた息子がいい会社に就職して一年で死んでしまう。もし、良い時期に発見されていたら当然助かったということですね。

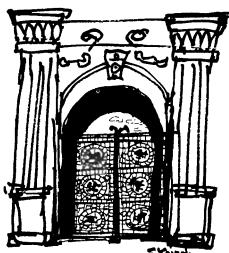
久留 そう、そう。その上一般に症状が出ている時はもうがんがある程度進んでいることも多いのです。この点を考えると、どうしても健康診断、集団検診というような、何もないときにいろいろ検査をする事が必要です

ね。結婚記念日とか誕生日とか、一年に一度定まった日に検査を受ける。それは信頼のおけるところで受けたほうがいいと思います。検査を受けて、昨年のは何もないか。ことしのきょうも何もないおめで度い限りです。万一何か見つかっても、よくその性質を見て、必要な処置を加えて行く。一年ごととやっていますと、たとえがんが出来ても最初なかつたものからできたのだから非常に小さいのが見つかるわけです。

花村 そうすると、全国にいらっしやる第一線のお医者さんたちの知識がそこまでレベルアップされれば、発見した早期がんを適当なところに送り込めばよいわけです。一日も早くこういうレベルアップが必要だから、がん研究振興会で援助しよう、こういうわけですね。(笑)

久留 お説の通りです。

(おわり)



冬瓜の記

白日夢

左団次丈との
インタビュー

本名荒川清。明治31年東京生れ。屋号
高島屋3代目 菊五郎劇団。昭和31年芸
術院賞授章。

「医者はおうそつぎだなあ。ああ痛てえ！
痛てえ、痛てえ」と云ったのを覚えてます。
手術のあと廊下に出てからですかね。

あの麻酔ってえのは変なもんですね。世間
では世の中が真っ黒になるってますね。気を
失って、ところがなんと私のはまっ(チロ)白
なんですよ、ドライアイスの煙がさつとかか
って来た様な感じ。それから口が右の方にひ
んまがっちゃまった。大変だ！このままさめ
ても曲っちゃったら！大変だ！

先生の声が、これから始めるって聞えて、あ
とはカチャ、カチャ、その内、腹の上の方を
ひじの角でぐつと押しつけられた様な感じ
で、痛てて……切られたなつ、と思いました
よ！なに不安ですか？いやそんなものは
全然ありません。ただ、いわば白い夢、白日
夢ってなもんかなあ！



歌舞伎座の楽屋で、左団次丈とのインタビュー。
左は高谷、右は伊藤の両医師。

そう云えば、今ちゃ二回やった私のがんも
白日夢の中で消えしまったんですかなあ。あ
しかけ七年と五年だから、もう大丈夫でござ

んしようね。お医者さんはどつちかてえと、
がんだあ云いにくいものらしいですね。私に
はちゃんとわかっていたんでさあね。がんセ
ンターでは、先生はなんともない、大丈夫
だ、あしたあたりどうです、退院したら、な
んて云っていて、そのあしたになったら、あ
さって手術しますかあ！なんていやこれに
は驚きましたね。でも、あの手も良いもんで
すね。患者も一寸安心しますからねえ。

まあ、今回なんてっても私は恵まれて助か
ったんだなあ！初代と二代目の左団次はが
んをこわがって、それでもがんでなくなりま
したが、私のは早くからそう云う気持(自覚
症)が出たってことが運が良かったんでしょ
うね。

それに、何んでも医学の進歩ですよ。
おかげ様で、もう七十二！がんセンターの
名前は力強いぢやないですか。早くめつけて、
早くやっていただける。私は江戸っ子で、刺
激のツオ(強)いところで育ったから、がんの
白日夢だって平気でござんすがね。だから、
助かる率も高いんぢやござんせんかね！……

(舞台では平家物語の建礼門院の出し物で、
院の母時子の役とはなまめかしい、ここでは
舞台での白日夢、大変お元気そうに着がえを
してさつと舞台に出てゆかれた)

(高谷)

< 横 顔 >



国立がんセンター
研究所長
なか はら わ ろう
中原 和郎

モルフオ、メンラウス、ナカハライ。これは何だかよつとお分りになるまい。もちろん先生の仇名などではない。じつは、トキソホルモンの研究で学士院賞を授与された科学者中原和郎先生の、もう一つの横顔を解く鍵なのだ。ブラジルの蝶の学名である。先生の友人でフランスの蝶類学者のルムールが、紫色に輝くあのあやしいまでに美しいブラジルのモルフオ蝶の一種に、先生に献じて名前をつけられたものだという。先生の名前をつけた蝶が地球の真側でブラジルの密林の中を飛びまわっているのを想像しただけでも楽しいではないか。子供の頃から蝶の好きだった先生は、蝶のコレクターとしてすでに一家をなし、そのコレクション

ションは国立博物館に収められている。わざわざ、上野までと億くうがる人には先生の著書「世界の蝶」をおすすめする。先生の収集された蝶を中心に書かれたもので、この中には、先生の発見された「ミクニベニヒカゲ」や「タニガワコヒヨウモン」ものっている。蝶に限らず昆虫類の新種の発見は、いわゆる素人コレクターに多いという。しかし、新種であるということを決

めるには同じ顔をした何百という蝶を比較して、その違いを明らかにせねばならない。これにはやはり真理を見抜く科学者のひらめきが必要である。ある現象を見ても、何の気なしに見過す人とその現象の中に全く新しい真理を発見する人がいる。これは秀れた科学者として欠くべからざる素質の一つである。ニュートンの原理の発見はこの良い例であろう。グリーンスタインの完全とも思われる研究成績から、未発見の残された真理に注目し、終戦後の不自由な研究室でついにトキソホルモンを発見されたのも、この秀れた科学者としての強いひらめきによるものである。がんの研究に一生をかけた人の横顔にかくされた趣味の一面をご紹介します。(金 上)

略 歴

明治二十九年鳥取県に生まれる。大正七年米國コーネル大学卒業。財団法人がん研究会がん研究所長をへて、昭和三十七年以来国立がんセンター研究所長。昭和四十年学士院賞授賞。昭和四十一年勲二等旭日重光賞授与、がんに関する研究論文約二百篇。

財団法人 がん研究振興会について

《設立まで》

国のがん対策の一環として、昭和三十七年、わが国最初の国立のがん専門病院が国立がんセンターに開設されて以来、専門的な診断を求めて、あるいは治療のために、全国各地から多くの人達がここを訪れるようになりました。

これらの患者さんがよくなって帰られるとき、あるいは不幸にして亡くなられた際に、ご本人あるいは家族の方から、一日も早くがんの悩みから人類が解放されるための研究費の一部にと、寄付を申出られる方が少なくありません。

わが国では戦後の混乱も漸く落ち着いた昭和二十八年頃からがんによる死亡の増加が目立ち始め、死因順位でも長らく国民病といわれてきた結核を抜いて二位にのし上り、その後もがんによる死亡が毎年二、三千人づつ増加するという傾向を示しています。このような情勢からがんに対する世間の関心

も漸く高まり、この国民の声を背景として国の施策にもがん対策がとり上げられるようになりました。しかし、何分にもがんについては医学的にもまだ未知の分野が広く、研究すべきことが山積していて、国の予算だけでは十分でないことは明らかですので、前述のような浄財をこの方面に活用させて頂くことは大へん意義のあることになりました。ところが、国立の機関であるがんセンターとしては、一般の方がたからそのようなお金を直接頂戴しにくい事情にあります。そこで、いろいろ検討の結果、寄付をなさる方達の意志を尊重し、それが最も有効に具現される方法を講ずべきだということになりました。そのためには、これらの浄財がひとり国立がんセンターのみならずその他の研究機関に於ても活用できるようにするために然るべき団体を設立し、がんの治療や予防技術の開発事業に充てるのが適当であろうということになりました。しかし、そのような団体を設立するには相当の準備期

間を必要とするので、とりあえず暫定措置としてそれまでに寄せられた浄財を基金として「がん研究振興会」という任意団体が設立されました。昭和四十年十二月一日のことです。

新財団の設立については、既存の団体との調整の問題もあり、若干紆余曲折はありましたが、石坂泰三氏、岩佐凱実氏、藤井丙午氏、長沼弘毅氏、花村仁八郎氏等のご斡旋によって財界方面の協力が得られるめどもつき、また監督官庁の了解も得られて、昭和四十三年九月二日公益法人として認可され「財団法人がん研究振興会」が発足しました。

本会は、本会の目的に賛同された団体又は個人の賛助会員によって拠出される会費によって維持されることになっていますが、このほか前述のように国立がんセンターを利用された患者又はその家族による篤志寄付があります。さらに最近では、がんの問題に関心をもたれた一般の方達による篤志寄付もふえつつあります。このような情勢に備えて、本会は所得税法及び法人税法による免税措置の対象となる法人（科学技術に関する試験研究を行なう者に対する助成金の支給を主たる目的とする法人）としても認可を得ています。

《本会の事業》

本会の目的は、「がんその他の悪性新生物（以下「がん」という）に関する研究を助長奨励すると共に、これら疾患の

最新の診断治療方法の普及を促進し、もって国民の健康と福祉の増進に寄与すること」としていますが、この目的を達成するため、次の事業を行なうこととしています。

一、「がん」に関する研究の助成

二、「がん」に関する診断治療技術の開発の助成

三、「がん」の研究者および診断治療に関する技術者の教育

訓練の実施の助成

四、「がん」に関する情報の提供

五、「がん」に関する内外諸団体との連絡および協力

六、その他の目的を達成するために必要な事項

次に、昨年九月発足以来、本年三月までの主な事業実績は次のとおりです。

一、大阪大学教授釜洞醇太郎氏他七名の研究に対する助成

（一千万円）

二、国際対がん連合（UICC）へのわが国加盟に伴う費用の分担（七十二万円）

三、タイ国立がんセンター設立援助計画への助成（九十万四千円）

（財団法人がん研究振興会事務局記）

★★★★

財団法人がん研究振興会役員名簿

★★★★

(五十音順)

会長	石坂 泰三(経済団体連合会名誉会長)	理事	武見 太郎(日本医師会会長)
副会長	岩佐 凱実(富士銀行頭取)	理事	武田長兵衛(武田薬品株式会社社長)
理事長	藤井 丙午(八幡製鉄株式会社副社長)	理事	塚本 憲甫(国立がんセンター病院長)
常任理事	花村仁八郎(経済団体連合会専務理事)	理事	土川 元夫(名古屋商工会議所会頭)
理事	芦原 義重(関西電力株式会社社長)	理事	長沼 弘毅(厚生省行政顧問)
理事	市川 忍(大阪商工会議所会頭)	理事	藤野忠次郎(三菱商事株式会社社長)
理事	川上 六馬(公営企業金融公庫監事)	理事	堀田 庄三(住友銀行頭取)
理事	木川田一隆(東京電力株式会社社長)	理事	矢田 恒久(第一生命保険相互会社社長)
理事	久留 勝(国立がんセンター総長)	監事	田実 涉(三菱銀行頭取)
理事	小西 宏(国立がんセンター運営部長)	監事	弘世 現(日本生命保険相互会社社長)
理事	小林節太郎(富士写真フイルム株式会社社長)		

★★★★

財団法人がん研究振興会評議員名簿

★★★★

(五十音順)

財

界

学

界

時国益夫 (麒麟麦酒株式会社社長)

赤崎兼義 (愛知県がんセンター研究所所長)

中島正義 (朝日麦酒株式会社社長)

石川七郎 (国立がんセンター副院長)

根津嘉一郎 (日本民営鉄道協会会長、東武鉄
道株式会社社長)

今永一 (愛知県がんセンター病院長)

道株式会社社長)

梶谷 鑽 (癌研究会付属病院副院長)

野村末一 (日本化学工業協会会長、三井東
庄化学株式会社社長)

釜洞 醇太郎 (大阪大学微生物病研究所教授)

庄化学株式会社社長)

小山善之 (国立東京第一病院副院長)

三浦 懋 (株式会社島津製作所社長)

相良 貞直 (日本対がん協会事務局次長)

密田博孝 (石油連盟会長、大協石油株式会
社社長)

島田 信勝 (慶応義塾大学医学部外科教授)

社社長)

須田正巳 (大阪大学蛋白質研究所教授)

安川 寛 (株式会社安川電機製作所社長)

千田 信行 (大阪府立成人病センター所長)

横山通夫 (中部電力株式会社社長)

日比野進 (国立名古屋病院長)

日向方斉 (住友金属工業株式会社社長)

山下久雄 (慶応義塾大学医学部放射科線教授)

寄付をいただいた方がた

当協会が法人として発足する以前から、多くの方がたの寄付をいただきました。その個人、法人の芳名を、今回から紹介させていただきます。今回は、スぺースの関係上、昭和四十三年九月に財団法人として発足したときからの方々、そして任意団体当時の方々を一部掲させていただきます。次号以後、年度の古い順に紹介いたします。芳名の敬称は省略させていただきます。

財団法人がん研究振興会

昭和四十三年九月 財団発足以後

四十三年

東京都世田谷区 山口 晴子
 横浜市磯子区 山本 秀隆
 東京都千代田区 朝日新聞文化事業団
 大田区 森田 健一
 杉並区 太田 恒弥
 目黒区 石塚 忠雄
 長崎県西彼杵郡 前川 亮
 大阪府吹田市 大槻五百枝

東京都調布市 岩田 早苗
 世田谷区 文木 明子
 品川区 伊藤 操
 広島市胡町 天野 誠一
 東京都北多摩郡 中島 孝義
 川崎市木月 中川 隆二
 東京都葛飾区 大熊 峰茂
 府中市 尾山 純一
 熊谷市 根岸 弘道
 東京都文京区 菊留 玉子
 杉並区 遠山 圭子
 北多摩郡 加藤 千代
 江東区 生木 道郎
 京都府竹野郡 島津秋祭青年団

東京都文京区 戸辺 勝利
 北多摩郡 羽場 昭久
 千代田区 山林 昭雄
 川崎市 大須賀福三郎
 東京都台東区 栄 会
 渋谷区 横沢 紀夫
 横浜市戸塚区 横沢 紀夫
 東京都目黒区 比企 信子
 町田市 新田 圭一
 大田区 安藤 雪
 足利市 増田 常二
 東京都小金井市 長島 達夫
 三鷹市 鈴木 伸夫
 大田区 杵屋六寿雄

東京都中野区 小林 実
 千葉県流山市 中山 明
 千葉県市 小泉 すす
 東京都江戸川区 武田 仁
 千葉県佐倉市 島地 靖男
 東京都千代田区 浅岡 英子

四十四年 (三月まで)

東京都小平市 北山 静子
 新宿区 笠松キク子
 台東区 大村 とい
 埼玉県大宮市 粕谷 フミ
 川越市 尾崎 三朗
 東京都杉並区 小村 一郎
 東京都江戸川区 西山愛一郎
 豊島区 大木 正巳
 浦和市 清水 浩子
 東京都江戸川区 須田 勉子
 大田区 宮崎 多喜
 目黒区 太田 詮夫
 大阪府堺市 安田 昌雄
 東京都文京区 古内きく子
 目黒区 鈴木 和子
 世田谷区 稲津 幾子
 横濱市港北区 氏森 励
 東京都世田谷区 小竹 かん
 久松 定秋

東京都杉並区
 〃 中野区
 大阪府豊中市
 鎌倉市
 御殿場市
 東京都世田谷区
 静岡県富士市
 大阪府池田市
 東京都板橋区
 大阪市天王寺区

任意団体当時

三十六年

東京都大田区
 〃 杉並区
 〃 豊島区
 〃 世田谷区
 〃 文京区
 鳥取県米子市

東京都墨田区
 〃 北区
 神奈川県大和市
 東京都新宿区
 船橋市
 東京都江戸川区

古賀 愛子
 橋本 光子
 阪口 昭夫
 蒔苗みどり
 勝間田いと
 星埜 保夫
 小川 清作
 納谷清之助
 岩波 義男
 沢西 理一

佐藤 英雄
 萩原 きよ
 宮沢志津衛
 武田 松吉
 星野 建紀
 吉田 智彦

鈴木勇次郎
 高野 亮三
 市川 春夫
 案田 ヤス
 森岡 秀剛
 船橋文太郎

茨城県常陸太田市 黒沢 八郎
 兵庫県明石市 上原 一實
 東京都台東区 長井つる子
 〃 目黒区 木村 郁子
 〃 目黒区 三島 敬子
 〃 品川区 塚本 昌芳
 〃 中央区 小川 鏡一
 〃 世田谷区 リンダ・オマタ
 〃 記念財団委員長チャール
 スフ・R・ファウエル

鎌倉市 渡辺 恵子
 東京都世田谷区 井口 光久
 〃 荒川区 宇佐美雅晴
 〃 川崎 安希
 〃 宮田 庄一
 〃 北區 エルマー・ギャ
 〃 中野区 レット、フローレ
 〃 大田区 ンス・ギャレット
 〃 港区 オマタ・シロウ
 〃 静岡市 古川 文字
 東京都目黒区 水津三枝子
 堤 育子

東京都港区 黒沢 八郎
 富山県五福 上原 一實
 静岡県蒲原町 長井つる子
 東京都中野区 木村 郁子
 神奈川県相模原市 三島 敬子
 東京都世田谷区 塚本 昌芳
 〃 杉並区 小川 鏡一
 〃 港区 リンダ・オマタ
 〃 墨田区 スフ・R・ファウエル
 横浜市港北区 村瀬和三郎
 東京都大田区 米国婦人グループ
 〃 台東区 ・クラブ会、会計
 〃 杉並区 幹事、ジャリー・
 〃 荒川区 ハスキンス
 〃 国立市 渡辺 恵子
 〃 杉並区 井口 光久
 佐賀県伊万里市 宇佐美雅晴
 東京都杉並区 川崎 安希
 〃 世田谷区 宮田 庄一
 東京都世田谷区 エルマー・ギャ
 静岡県清水市 レット、フローレ
 東京都世田谷区 ンス・ギャレット
 浦和市 オマタ・シロウ
 東京都世田谷区 古川 文字
 品川区 水津三枝子
 〃 目黒区 堤 育子

三十八年

東京都港区 吉田 剛
 新田 隆信
 久保田忠男
 砥板 辰男
 山本 裕紹
 伊久間 基
 吉羽 和子
 飯田みさを
 鈴木 清
 阿部 秀男
 水谷 昭三
 佐藤 義勝
 阪井田季味
 宇野 喜重
 石田 左門
 吉田民二郎
 松尾 百代
 橋本 行
 森崎善之助

東京都港区 吉田 剛
 東京都杉並区 新田 隆信
 東京都中野区 久保田忠男
 東京都世田谷区 砥板 辰男
 東京都世田谷区 山本 裕紹
 東京都世田谷区 伊久間 基
 東京都世田谷区 吉羽 和子
 東京都世田谷区 飯田みさを
 東京都世田谷区 鈴木 清
 東京都世田谷区 阿部 秀男
 東京都世田谷区 水谷 昭三
 東京都世田谷区 佐藤 義勝
 東京都世田谷区 阪井田季味
 東京都世田谷区 宇野 喜重
 東京都世田谷区 石田 左門
 東京都世田谷区 吉田民二郎
 東京都世田谷区 松尾 百代
 東京都世田谷区 橋本 行
 東京都世田谷区 森崎善之助

東京都世田谷区 室蘭市
 東京都練馬区
 大阪府城東区
 東京都目黒区
 文京区
 世田谷区

東京都日野市
 〃 杉並区
 〃 北区
 〃 大田区
 富山市
 日立市
 横浜市戸塚区
 東京都中野区
 大田区
 新宿区
 小田原市
 東京都杉並区
 横浜市戸塚区
 浦和市
 東京都品川区
 中央区
 世田谷区
 武蔵野市
 杉並区
 世田谷区

東京都日野市 永田 華子
 〃 杉並区 横尾 昌枝
 〃 北区 瀬戸 穰二
 〃 大田区 木下 豊
 富山市 正木 隆男
 日立市 瀬尾 茂
 横浜市戸塚区 高師 菊子
 東京都中野区 鈴木 進
 大田区 岩瀬敬一郎
 新宿区 滝 真直
 小田原市 中村 正
 東京都杉並区 荒木 高伸
 横浜市戸塚区 脇田 俊三
 浦和市 依田 孝喜
 東京都品川区 中山 卯郎
 中央区 南川 和三
 世田谷区 柴田 達雄
 武蔵野市 国司 昭司
 杉並区 高木 浩
 世田谷区 高山 富子
 世田谷区 高瀬 恵子
 室蘭市 大沢 錠二
 練馬区 猪俣 冬枝
 城東区 大川 輝子
 目黒区 向坂 良子
 文京区 芝崎 誠
 世田谷区 弘山 尚直

東京都世田谷区 室蘭市
 東京都練馬区
 大阪府城東区
 東京都目黒区
 文京区
 世田谷区

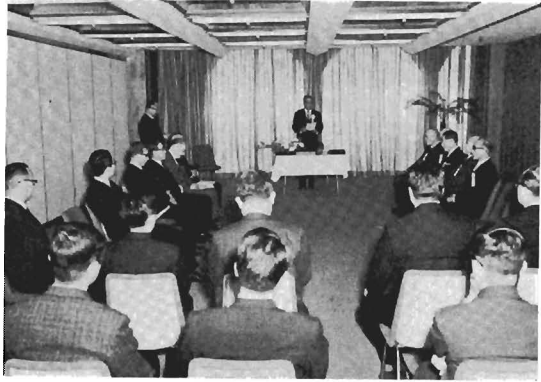
東京都大田区	真鍋 敏雄	東京都品川区	有本 久子	横滨市金沢区	三浦 昌	豊中市	木谷 宰三
〃 世田谷区	鶴見 好	〃 杉並区	灘山 敏	神奈川県逗子市	饗場 正彦	東京都練馬区	石上 具能
浦和市	飯田 泰啓	〃 中野区	今村 国治	横滨市磯子区	長島アサエ	鎌倉市扇ヶ谷	川上 久里
神奈川県二宮町	二見 真平	〃 文京区	柴山金右衛門	鎌倉市	河合 重郎	東京都豊島区	中島 寿美
東京都港区	千場 きみ	〃 世田谷区	谷沢源太郎	東京都中野区	久保川敬作	〃 杉並区	塚口 稔
〃 渋谷区	保井 虎彦	横滨市保土ヶ谷区	渡辺 利男	〃 〃	島田ふみ子	〃 足立区	大室 信男
〃 品川区	冨師 亮	岐阜市	太田種治郎	〃 〃	小川 文子	〃 江戸川区	黒井 英雄
横滨市港北区	角田 イサ	三十九年	堀田 きみ	〃 〃	渡辺信次郎	〃 世田谷区	田島 静江
鎌倉市津	竹内 一男	埼玉県足立町	堀田 きみ	〃 世田谷区	八枝 輝吉	〃 江東区	川口 絹子
藤沢市鶴沼	松島 一男	東京都文京区	林 昌宏	茨城県東海村	高畑 けさ	〃 世田谷区	宮 豊子
町田市金森	比気 尚	〃 杉並区	大倉 史郎	東京都世田谷区	杉本 栄三	東京都港区	富沢 正一
東京都杉並区	小田とみ子	小平市	相原 一公	東京都台東区	川井 保	〃 〃	富沢 健二
〃 品川区	田宮 信雄	東京都新宿区	山家富士子	〃 渋谷区	渡辺 栄子	〃 〃	富沢 英郎
〃 台東区	杉崎 寒	横滨市南区	清水ヨシ子	横滨市港北区	小笠原定克	武蔵野市関町	竹内 政子
大分市	野尻 敏子	豊中市桜塚	平尾 行雄	東京都渋谷区	広瀬 道子	東京都江東区	工藤作次郎
東京都品川区	色川浩太郎	東京都練馬区	内原 茂美	前橋市	竹田善之助	広島市	寄田富美子
〃 大田区	中山 峰子	柏市	八田 信子	芦屋市	山本 栄一	東京都渋谷区	山沢 久治
〃 国分寺市	岡本キヨシ	東京都千代田区	八田 善夫	横滨市西区	高田 つぎ	〃 大田区	田中 浜子
青梅市西分	山口 榎夫	〃 〃	西尾 正美	東京都保谷町	高杉百合子	長野県喬木村	沢柳嘉寿市
東京都大田区	有坂 信司	〃 〃	田中 進弥	浜松市	田浦 政男	東京都世田谷区	伊藤 きぬ
府中市是政	山田 稔	港区	伊藤 貞子	東京都狛江町	大塚 キミ	〃 杉並区	鈴木 正俊
東京都大田区	玉置 武司	世田谷区	中村みどり	〃 新宿区	青木英四郎	〃 〃	美田 孝
〃 港区	松田 忠康	大田区	久木 豊子	〃 〃	金原 信一	鳥取県三朝町	岩本 智城
〃 中野区	倉知 寿男	武蔵野市境	高橋 良能	〃 〃	本多昭二郎	以下は、次号に掲載します。	
鹿児島市吉野町	木場 義隆	東京都世田谷区	松本弘三郎	〃 〃	中根 誠		
横滨市西区	中村 わい	江戸川区		〃 〃	竹部 安子		
東京都品川区	浅田 竹次	愛媛県宇和町			戸木田婦佐		

ニューズ

◇◇ がん研究助成金の贈呈式挙行される ◇◇

昭和四十四年三月十日、経団連会館において、本会のがん研究助成金贈呈式を挙行。次の方々にそれぞれ助成金を贈呈した。

研 究 課 題	研究費	所 属	研 究 者
悪性腫瘍臨床統計のための情報処理システムに関する研究	二百万円	国立がんセンター	梅垣 洋一郎
がん細胞DNA合成の調節機構に関する研究	二百万円	癌 研 究 所	小野 哲生
4-ニトロキノリン-N-オキサイド(4NQO)によるハムスタ ー胎児細胞の試験管内がん化	百万円	大 阪 大 学	釜 洞 醇 太 郎
キノリン誘導体の発がん機構とがん細胞の生物学的特性	百万円	国立がんセンター	樽 谷 和 男
脳腫瘍の組織-細胞培養及びその臨床応用に関する研究	百万円	東 京 大 学	佐 野 圭 司
実験的胃がんの研究-とくにニトロゾグアニジンによる犬の胃がん の研究	百万円	国立がんセンター	杉 村 隆
単純性卵巣がんの臨床病理学的並びに細胞学的研究	百万円	東 京 慈 恵 会	寺 島 芳 輝
がん細胞障害に関する酵素組織化学的研究	百万円	慶 応 義 塾 大 学	渡 辺 慶 一



写真は、助成金贈呈式の風景。正面で式辞を読むのは本会の花村常務理事。

☆ ☆

★ タイ国立がんセンター

★ に対する協力

海外技術協力事業団(O.T.C.A)の援助計画による、タイ国立がんセンターは昨年十二月十日に開所式を挙行。わが国立がんセンターより久留総長はじめ梅垣放射線診療部長、伊達企画室長、坪井医長、福富医員、福岡検査技師長、島野、斎藤放射線技師らが出席した。梅垣部長、伊達室長、福岡技師は開院式前後の準備及び指導のため、約一ヶ月間現地に滞在して後帰国した。

坪井医長は放射線診断、福富医員は内視鏡、少し遅れて赴任した仁井谷医長は臨床検査についてそれぞれ三ヶ月間現地指導にあたった。

現在は第二次派遣専門家として、山田医長(放射線)、三輪医員(内視鏡)、向島医員(臨床検査)が酷暑の中で活躍中である。なお、斎藤技師は病気のため三月十七日帰国したが、伊達室長、島野技師は開所式以来、現在なお現地にて活躍中である。

ある。三月下旬には、諸江事務官が事務連絡の円滑化のため派遣された。

この援助計画は、機材援助、専門家派遣、研修員受入れから成り、昭和四十二年より開始されている。

★ がん研究助成金に

★ 関する厚生省告示

四十四年度におけるがん研究助成金の交付の対象となる研究課題が決定され、昭和四十四年三月二十四日告示、四月十二日締切られた。

研究課題は(1)発がんに関する研究三課題 (2)がんの病理、生理、生化学に関する研究六課題 (3)各臓器がんの診断、治療に関する研究十課題 (4)がん化学療法に関する研究三課題 (5)放射線治療に関する研究一課題 (6)がん疫学的研究三課題二課題、合計二十八課題である。

☆ 高松宮妃癌研究
基金学術賞授賞 ★



わが国のがん研究の水準を高め、がん
征圧を目ざす目的で、昨年四月に設立さ
れた財団法人高松宮妃癌研究基金は、二
月十八日、第一回学術賞を国立がんセン

ター総長久留勝、同研究所長中原和郎両
博士におくることに決定した。そして、
二月二十二日、東京高輪の光輪閣にて、
高松宮妃殿下ご臨席のもとに授賞式が行
なわれた。

写真は、宮妃から賞をお受けする久留
総長。

▼ 免税措置ついて ▲

昭和四十三年九月二日以降、本会に御
寄付、又は賛助された金額に対しまして
は所得税法及び法人税法による免税措置
がとられます。

右の証明書が必要な方は、財団法人が
ん研究振興会事務局までお申し出て下さ
い。

次号予告

本誌は、目下のところ、季刊ですか
ら、次号(第二号)の発行は、秋に予定
しています。

二号には、創刊号に掲載したような記
事のほかに、あたらしい企画のものをも
りこむように準備を進めています。

秋風とともに「加仁」第二号をお届け
します。どうぞご期待下さい。

創刊号について、読者のみなさまの忌
たんのないご意見をお待ちしています。
いただいたご意見を充分に誌面に反映
させ、充実した第二号をお届けするよ
う、関係者一同構想をねっています。

「加仁」第二号は秋風に乘って……。



あとがき

蟹の絵を表紙に配したこの協会の機関誌をつくろうと、編集委員会が発足したのは三月十一日のことだった。熱心な討論の後、雑誌

「加仁」の創刊号に執筆をお願いする方々の名は間もなく決ったが、これ等の方々の御承諾が得られるかどうかについて、誰一人確信は無かったのである。しかし、編集委員の心配は要するに杞憂だった。多忙を極めて居られる方々のみだつたに拘らず、御依頼申し上げた原稿は間もなく頂戴出来たからである。かくて、予定よりもはるかに早く創刊号の誕生をみるこゝとなつた。

石坂会長、藤井理事長の暖かいお言葉のみならず、長沼理事の含蓄ある美しい文章で、巻頭を飾ることができたのは何よりのことである。がんは治せることを確信を以て強調された久留総長の文字は力強く読者の胸に響かずにはおかぬだろう。この「加仁サロン」欄

は今後も引続きその道の権威の方々に、執筆をお願いして行くつもりである。随想欄、鼎談欄では、面白い言葉のやりとりの中に、癌の持つ色々の特性を充分に覗って、いただきたい。

がんを克服された方々の御体験を「冬瓜の記」に収めた。冬瓜は闘癌に通じる。厳しい体験の追憶の中に、生を新たにすることが、如何に喜びに満ちたものであるかを教えるこの欄は、今後も続けて行き度い。あるいは、癌の葉の発見に一生を賭け、あるいは、癌の本質の追求に黙々としてたゆまぬ努力をつづけていられる研究者たちの風格を「横顔」で偲んで載く。その他、本会に寄付をいただいた方々の御芳名を掲載して、その芳情を永遠に記録し、また、がんに関係するニュースと、先輩の業績を「あしあと」に紹介する。本号は春の医学会の準備のあつただしきさ中の、編集委員たちの努力の結晶であつただけに、出来上つて見ると一しお喜ばしい。今後もできるだけの努力で、楽し

い雑誌に育て上げ度いと思う。な
お、スケッチに腕をふるって下さ
った山田喬、園田隆彦の両氏、レ
イアウトについて横山茂氏の助言
を得たことも、大きな幸いであつ
た。
癌を制庄するには、多角的な総
合力の結集が欠くべからざる前提
である。
将来は全国的に志を同うする方
々の御参加を得て、強力且有効な
この雑誌の発展を念願して行き
たい。

(市川)

「加仁」編集同人

編集顧問

久留 勝

中原 和郎

塚本 憲甫

石川 七郎

市川平三郎

小西 宏

伊藤 一二

金上 晴夫

榎谷 和男

高谷 治

三輪 潔

渡辺 弘

笠松 達弘

塙 嘉之

榎本 義雄

編集事務局

加仁 創刊号

昭和四十四年六月十日 印刷
昭和四十四年六月十五日 発行

発行人 藤井 丙午

編集人 市川 平三郎

発行所

東京都中央区築地五十一一
一、国立がんセンター内

財団法人 がん研究振興会

電話(電)二五一(代表)

郵便番号 一〇四号

印刷所 教文堂

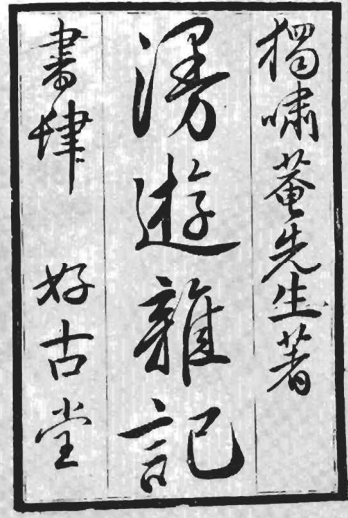
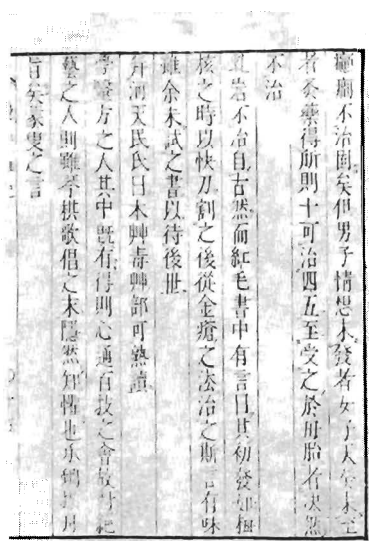
あしあと

永富・独嘯庵（一七三二〜一六六）は長州の生れで、若くして京都に出て山脇東洋の門に学んだ。

当時、五行や十二支等で健康や病気を論ずるといった。いわば理想的な医学を排し、かえって古い時代のもっと実際に即した医学を行うべきであるとする古医

方がしだいに勢力を伸ばして来た。永富独嘯庵は、この古医方を学ぶと同時に、西洋医学の粋も強く説いた。彼は諸国を遍歴した後大阪に住んで、三十五歳の若さで明治三年にたおれるまで医を行

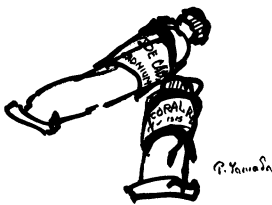
い、大いに名声があつた。ここに掲げる、彼の著書「漫遊雜記」（一七六四）では、病理解剖の必要を説き、又この写真で示した様に乳岩（癌）も、その初期で梅の実位に小さい時にメスを入れて剔出すれば、治癒する可能性



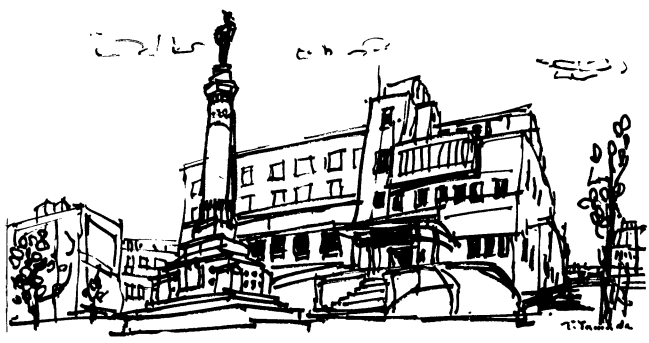
があることを示唆しており、癌の早期発見と早期手術に触れている点で興味深い。（端）

（小川鼎三著「医学の歴史」より。写真も、順天堂大学小川博士のご厚意による。）

題字（藤野玲子）



加
仁
創
刊
号



昭和四十四年六月一〇日印刷
昭和四十四年六月十五日発行

発行人 藤井
編集人 市川